大徳寺文書料紙に残る簀の目数の歴史的変遷

韓允熙[1, 2)]、江前敏晴[3)]、保立道久[1)]、磯貝明[3)]

1) 東京大学史料編纂所：東京都文京区本郷 7-3-1
2) <現在の所属>韓国国家記録院ナラ記録館：京畿道城南市始興洞大旺板橋路 398
3) 東京大学農学生命科学研究科：東京都文京区弥生 1-1-1

Chronological change in frequency of laid lines of document papers from 12th to early 18th centuries housed in Daitokuji temple

Yoon-Hee Han[1, 2)], Toshiharu Enomae[3)], Michihisa Hotate[1)], Akira Isogai[3)]

1) Historiographical Institute, The University of Tokyo
Hongo 7-3-1, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan

2) Current affiliation: Nara Repository, National Archives of Korea
398 Shiheung-dong Daewangpangyro, Seongnam, Gyeonggi-do, Korea

3) Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo
Yayoi 1-1-1, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8657, Japan

1 緒言

1.1 簀の目とは

和紙では，植物繊維の水懸濁液からろ水して紙層を形成するための網にあたる抄紙具が簀(す)であり，竹又は萱の一様な太さの細いヒゴが糸（馬の毛を使っていた例もある）で編まれ等間隔に並んでいる。紙に観察されるそのようなヒゴの痕跡が“簀の目”である。図1に簀の写真と簀の目が見える和紙の写真の例を示す。簀の目は，使用した簀のヒゴの配置を反映して等間隔の規則正しい縞となって見える。一番右の写真にある古文書は大徳寺文書の中から選んだ 1 つの試料例で, 透過光によって得られた画像である。

ところで，簀の目の痕跡はなぜ紙に残るのかという素朴な疑問が湧く。紙料からヒゴ間の隙間を通って脱水されるため水はその隙間に向かって流れ込む。繊維はその流れに乗って隙間に向かって移動するが，繊維は隙間に比べて長く，一度に多数の繊維が流れ込めば必然的に目詰まりが起きる。そのためヒゴ間の隙間部分には，ヒゴの真上より多くの繊維が残ることになり, 紙を透かしてみるとその部分は濃く見えることになる。これが簀の目の見え方の一般的な説明となろう。しかし，実際にはこれとは異なる見え方もあり, 簀の目が見えるメカニズムの詳細については別の報告として発表する計画である。

漉簀の痕跡である簀の目を調査することによりどのような有益な情報が得られるだろうか。ヒゴの並んでいる間隔やヒゴの太さ[1)]などのような簀の形状的な特徴を推

定することで, その紙を製造した時代の木工品の加工技術などを知ることができるという点がまず挙げられる。料紙に残る刷毛目や板目（湿紙を木製の干し板に張り付けて乾燥させたときに転写される木目が“板目”であり，張り付ける際にその反対の面を刷毛で撫でつけた跡が“刷毛目”である。）から推定される乾燥技術と合わせれば当時の抄紙工程をかなり推定できる可能性がある。しかし，刷毛目や板目ははっきりわからない場合も多く，それに比べると簀の目は多くの紙で観察され，肉眼でも容易に観察可能であることから系統的に過去の抄紙技術を推定するのに適している。ここでは簀の目の持つ情報のうち，目数（めかず，1 寸=30.3mm あたりの本数）を計測し，文書としての書記年をもとにした目数の変遷，紙の他の物性との関連を調べた。

古文書，史料，絵画等の紙文化財を保護し，修復していくことは，史学的，文化的及び美術的価値を継承するという観点から近年重視され，広く行われている。紙文化財の修復には和紙を使うことが多く，適切な復元補修紙の選択にあたっては，外観の調和のために簀の目の数を一致させる必要がある。そのためには古文書等の料紙の簀の目数を正確に測定することが必要となるが，現状では，目視により一本ずつ勘定する作業が行われている。復元補修紙との目合わせならばそれでも十分かもしれないが, 過去の簀の目の細かさから製作技術を推定したり, 後年の研究に役立つような正確なデータベースを構築したりするためには精密な簀の目数測定法が必要になると考えられる。加藤らはフーリエ変換を利用した画像処理による計測法を考案し[2]，最近ではシーボルトの和紙コレクションの紙質調査にも活用している[3)]。本研究でも同様の手法を用いてソフトウェアを作成し，簀の目数を計測した。

今回は，京都市北区にある禅宗寺院竜宝山大徳寺に伝わる，いわゆる大徳寺文書の中の一部の料紙について簀の目数を計測し，坪量（1m^2 当たりの質量），厚さ，書記年などのデータとの関連を考察した。測定対象とした文書が伝わる竜宝山大徳寺は，京都市北区にある臨済宗大徳寺派の大本山である。建築物や庭園を始め，中国南宋時代の書画，後醍醐天皇宸翰御置文（天皇直筆）などの国宝を有するほか，大徳寺文書（4,267 通）と総称される文書が重要文化財に指定されている。

2　実験

2.1　試料と及び測定した紙の特性

本研究では，大徳寺文書の中の料紙 4890 点（枚）を対象とし、坪量（g/m^2），厚さ（mm），密度（g/cm^3），年代（西暦）などを測定又は調査した。文書様式の内訳は、綸旨 158 点（このうち「案」は 28 点)、院宣 77 点（同 41 点)、御教書 76 点、書状 843 点、奉書 354 点（同 166 点)、令旨 14 点、寄進状 284 点、請文 159 点、売券 505 点、下知状 32 点（同 15 点）などであった。簀の目数の測定したものは、309 点であったが、文書の記述から年号や年を特定できないものもあったので，年代と簀の目数の対応がわかるものは、書記年が 1168 年から 1708 年までの料紙 282 点であった。また，文書料紙の坪量（g/m^2），厚さ（mm），密度（g/cm^3）の歴史的変遷と、簀の目数との関係について何らかの傾向があるかどうかを考察した。

2.2　透過光像の撮影

東京大学史料編纂所写真室において，大徳寺文書料紙の透過光像をデジタルカメラ（コダック製 ProBack 850 万画素）で撮影し、フーリエ変換法による簀の目数計測に供した。

2.3　透過光像からの簀の目数の計測

フーリエ変換は、簡単に言えば、ある関数を周波数の異なる三角関数の和に変換することであり、どのような関数でも必ず三角関数の和の形に変換できる。したがって一定の周波数で規則的に現れる信号の変化を見つけ出すのに適している。例えば一定の音階をもつ音は空気の規則正しい振動の波であるので, その音を録音してフーリエ変換し，周波数軸上に信号の強度をプロットすると，その音階に対応した周波数位置にピークが現れる。二次元フーリエ変換は，xy の 2 つの変数に対してある値を持つ信号に対するフーリエ変換を指し, 通常画像情報の中に含まれる周期性を見つけるのに使われる。簀の目は一定の間隔で規則正しく線が並んだものであり、1 寸の長さの中にその線が何本あるのかという周期を求めるのに応用できるわけである。図2に二次元フーリエ変換の例を示す。左図は規則的に並んだドットの写真で，画像の xy 方向とも 512 点の画素からなる。これをフーリエ変換し，パワースペクトルを図示すると中図のようになる。この図で見られる多数のスポットは左図に含まれる周期的なドット配列をすべて表現している。その中央部分の 256×256 画素だけを拡大してみると右図のようになる。中心点を座標の原点と考え，1 つのピークである点(35, 77)を例として考えると, 原点からその点に向かう方向と直交する方向に周期的なドット配列又は縞が存在することを意味する。そしてその縞の間隔は，元の図の縦又は横の幅が 512（例えば mm）であったとすると，512 を 84.6（原点からピーク点までの距離）で割った値である 6.1（例えば mm）であると計算できる。具体的には右図に書き込んだ縞模様と平行で，同じ間隔の周期性が元の図に存在することを意味する。このように計算するプログラムを，Visual Basic 6.0, Microsoft を使い自作した。非常に明瞭な簀の目の周期性は，パワースペクトルの中の最も強度の大きいピーク，あるいは周囲に比べて相対的に最も強いピークと考えて計算できるが, 実際には目でピークを認識できても計算でそれを見つけるのは簡単ではない。プログラムでは，いくつかのピークを拾い出すと同時にそのピークに対応する縞を描き, 元の透過光像との対比を目視で行ってから目数を判断した。

このプログラムを使って計算した例を図3に示す。上左図は大徳寺文書のある料紙を試料とする透過光像で, 簀の目が非常にはっきりしていることが拡大図からもわかる。上右図はその画像をフーリエ変換して得られたパワースペクトル図であり，周期的な縞である簀の目の間隔に対応した位置にスポット（図の▷印）が現れている。点対照となった位置にも，もう 1 点のスポットがあるが，パワースペクトル図は点対照となる性質があるため実際には上半分を見ればよい。図3の下段は，同じく大徳寺文書の別の料紙であるが，この透過光像は簀の目が不明瞭で，目視では簀の目が見えない，と判断されそうであるが，フーリエ変換によって得られたパワースペクトル図では，周期的な縞の存在を示すスポットが現れていることがわかる。なお，このパワー

スペクトル図の中央部分だけをコントラストを高くして強調して表示している。狭い領域について目視では見えない縞でも，フーリエ変換では測定対象とする全領域に渡って積算して周期性の有無を判断しているため，スポットが現れるのである。

このような簀の目の間隔は，従来から目視で計測されており，物差しを当てて数箇所の目数を数えて平均をとるような方法が普通であるが，簀の目が細かくなるほど，間隔が狭くて数えにくくなる。同じ目視でも異なった目数を持つ等間隔の平行線パターンを印刷した簀の目測定帳を料紙の横に並べて比較し，もっとも間隔が近いと思われる平行線パターンから推定する方法もあり，一本一本数えるよりはかなり迅速に測定できる。平行線パターンを透明シートに印刷して料紙の上に置けば，モアレ縞が最も疎となるパターンの目数をもって簀の目数とすることもでき，さらに迅速となる。この手法は韓国の Song Jeong-Ju 氏が考案したとのことである。これらの目視法に比べて，フーリエ変換法では，その解析例からもわかるように簀の目が細かく不明瞭な場合でも簀の目数を推定できることがある。また目視では，料紙全体の中で簀の目が目立つ箇所だけに注目して目数を数えがちであるが，当時の技術不足のために一つの簀の中で細かい部分と粗い部分が混在することもあろう。そのような場合でもフーリエ変換法では，処理した全領域の平均的な簀の目数を知ることができる長所がある。さらに糸目の間隔も同時に測定することが可能である。計測者が測定箇所を選ぶ癖を排除することができるという客観性がこの方法の最大の長所といえる。

以上のようなフーリエ変換法を用い，大徳寺文書料紙の透過光像をフーリエ変換し，パワースペクトル図から周期的な特徴（図の▷印の先端付近）を見つけ，1 寸（30.3 mm）あたりの簀の目数を計算した。

3　結果と考察

図4は，調査対象とした大徳寺文書料紙の簀の目数の分布を示す。計算された簀の目数は 8～25 本/寸と分布が広く，2 本おきに区切った分布では 16～18 本/寸がもっとも頻度が高く，全体の平均値は 16.4 本/寸であった。

図5は 1168 年から 1707 年までの 540 年間に渡る簀の目数の分布を示している。同じ年代でも地域性があるためか目数は幅広く分布しているが、長期的に見れば少しずつ簀の目の数が増加する傾向が読み取れる。

これを図6に示すように，135 年ごとの 4 つの期間（第 1 期～第 4 期と呼ぶことにする）に分割して平均値及び 95%の信頼度区間を計算してみた。平均値は 14.3 本（第 1 期）から 19.0 本（第 4 期）に増加したことがわかる。また信頼度区間を示す誤差バーの重なりがなければ，95%の信頼度で両者の値に差があることを意味するが，第 1 期は，第 3 期及び第 4 期よりも目数が少なく，第 4 期は第 1 期～第 3 期のどの時代よりも目数が多いと 95%の信頼度で言えることがわかった。

一般に近世以降では時代とともに簀の目が細かくなる傾向が知られており，加藤[4]によれば 1600 年代から 1700 年代半ばまでは 20 本弱/寸であるが，1700 年代の終わりから 1900 年頃にかけて 20～30 本/寸程度に急激に増えており，抄紙具の進歩が伺われる，と述べている。加藤らの調査対象は龍谷大学所蔵の文書であり，大徳寺文書様式（文書作成の用途）とまったく異なっている場合も多いかもしれないが，第 4 期

（1583～1707 年）の平均値 19.0 本/寸は，連続性を示しているようである。1700 年代以降の急激な簀の目数の増加に比べれば，この時代（中世～近世）には歴史的に抄紙具（簀）の技術的な進歩はゆっくりしたものであったと判断できる。しかし，平均値の漸増に比べてどの時代でも簀の目数の分布が非常に幅広いということに注目すべきである。これは，繊維原料の種類や煮熟の程度による繊維の細かさ，添加剤などによって繊維懸濁液の脱水速度が変わるため，一定の抄紙方法でむらのない紙を抄くには，その繊維懸濁液に適した目数の簀を用いる必要があるからである。目数の異なる複数の簀を用意していた可能性もあるが，産地によって繊維原料の種類，煮熟の程度，添加剤の種類と量などはほぼ決まっていたと思われるので，実際には同じ産地では同じ目数の簀が使われていた可能性が高い[5)]と考えられる。その意味では繊維原料に適した簀を製造していたのであって，けっして抄紙用具製作の技術レベルが低かったとは言えない。

この推論の真偽は簀の目数がその簀を用いて製造した紙の物性と何か関連がないか，特に簀の目数と紙の厚さの間に相関がないかどうかを調べることによりある程度推測できる。図7は簀の目数が，料紙の面積(a)，坪量(b)，厚さ(c)及び密度(d)との間にどのような関係があるかを示す。いずれも相関係数（グラフ中の R^2 の値。値が大きいほど明らかな因果関係があることを示す。）は小さかったが，厚さと坪量が増加すると簀の目数が少なくなる傾向，すなわち負の相関を示した。厚い紙又は坪量の大きい紙を漉くときは脱水が遅くなるため，迅速に作業ができるように必然的に粗い簀の目を使って脱水時間を短くする工夫をしていたものと考えられる。坪量に関しても同様の傾向がある。1800 年代前半のシーボルトコレクションの調査でも，加藤ら[6)]は，目の細かい簀では薄い紙を漉き，目の粗い簀では比較的多様な厚さの紙を漉いた，と考察している。稲葉ら[7)]は，1870 年頃の和紙を集めたパークスコレクションの中のコウゾ紙に関して，目の粗い漉き簀で薄物も同時に漉いており，目の細かい簀では薄物のみとなる，と述べている。いずれの場合も，紙の厚さと簀の目数の間に負の相関があることを示している。19 世紀の近世になると，中世にはなかったような目の細かい簀（30～40 本／寸）も出現している。厚い紙をこのような目の細かい簀で漉こうとしても脱水に時間がかかる上に地合が悪くなることを考慮すれば，目の細かい簀の出現は，薄い紙の需要が高まったのと同時に，このような簀を作る技術も向上していったことを示すものと考えられる。

時代による変遷を料紙の面積(e)，坪量(f)，厚さ(g)及び密度(h)について見てみると，まず面積は右下がりの減少傾向にあった。文書様式別では、院宣、御教書、綸旨、寄進状は大きく、単なる書状に小さいものが多いという特徴があった。巻物にしたり、整理のために一番幅の狭い紙に合わせて切りそろえたりするので必ずしも簀の大きさとは一致しないようである。坪量及び厚さについては分布の幅を考えると，時代による差はほとんどなく，産地によって坪量又は厚さの異なる特徴的な紙を漉いていたと考える方が妥当のようである。密度に関しては，時代によらず一定で分布の幅も比較的狭い。密度に影響する因子は，叩解（打解）とウェットプレス（圧搾）の程度であるが，特にウェットプレスの影響が出やすい。密度が一定であるということは，ウ

ェットプレスの圧力や時間が一定であったということであり，製造方法が安定していた時期であったと考えられる。さらに、密度が 0.5 g/cm^3 以上であるような現代の洋紙と同程度に緊密となった料紙があることがわかるが、打ち紙処理を行った料紙であろうと考えられる。このような高密度の料紙は 1500 年代後半の戦国時代の武将の書状に限定されることから、威厳を誇るための一種の流行であったと思われる。

図8は、文書様式別に見た簀の目数を示す。(a)は歴史的な変遷を、(b)は坪量との関係を示したものである。(b)から判断すると、綸旨は坪量が比較的小さい紙を用いる習慣があったようで、しかも低坪量の割には非常に簀の目の数の多い料紙が使用されていたことがわかった。14 世紀の綸旨は、後醍醐天皇と後光厳天皇の文書がほとんどであり、肌理の細かい特定の産地の紙を好んで使用していたことが伺える。奉書、御教書、院宣は簀の目数から言うと平均的な料紙を使用していたことがわかった。文書の中には「案文」や「写」もあったが、それらの料紙が「正文」の料紙と異なる特徴があるかどうか調べたところ、綸旨以外では、坪量の小さい料紙を使う傾向にあった。しかし、簀の目数の上では差異がなく、同じ生産者から坪量の異なる紙を購入していたか、もしくは何枚もの紙の中からか重厚なもの選んで「正文」用として使い分けていたと考えられる。

なお表 1 に，調査した文書料紙全ての書記年（西暦），文書名，コウゾ（楮）・ガンピ（斐）・ミツマタ（三）の別，紙質（伝統的な和紙種別の呼称で分類），面積(cm^2)，厚さ（mm），密度 （g/cm^3），坪量（g/m^2），簀の目数（本/寸）を示す。

4　結論

大徳寺文書料紙の簀の目数を測定した。透過光写真の画像を二次元フーリエ変換し，パワースペクトル図のスポット位置から 1 寸（30.3 mm）あたりの簀の目数を計算する手法を用いた。大徳寺文書料紙 309 点の測定結果では，8～25 本/寸と分布が広く，平均値は 16.4 本/寸であった。書記年代との対応がわかる 1168 年から 1708 年の間の 540 年間の紙 282 点について 135 年ごとの 4 期に分けて変遷を見ると，第 1 期の 14.3 本/寸から第 4 期の 19.0 本/寸へ増加していた。しかし同じ時代でも非常に分布が広いことから，同一産地で目数の異なる複数の簀を用意し，その中から適宜最適なものを選択して用いていた可能性を否定できないが，現実的には地域ごとに特徴的な坪量で紙を漉くという分業体制が自然と形成されていたと想像される。紙の厚さ又は坪量と簀の目数については，厚いものほど目数が少なくなる傾向を示しており，厚い紙を漉くときは脱水が遅くなるため，迅速に作業ができるように必然的に粗い目の簀を使って脱水時間を短くする工夫をしていたことが伺われる。また、打ち紙処理を行ったと見られる高密度の料紙が戦国武将の書状によく使用されていたことや、文書様式別では、綸旨の料紙は軽量にもかかわらず簀の目数の多い簀で漉かれていたことが明らかになった。

5　謝辞

透過光写真を撮影して頂いた東京大学史料編纂所写真部の方々に謝意を表します。

大徳寺文書料紙に残る簀の目数の歴史的変遷

韓允熙[1, 2)]、江前敏晴[3)]、保立道久[1)]、磯貝明[3)]

1) 東京大学史料編纂所：東京都文京区本郷 7-3-1
2) <現在の所属>韓国国家記録院ナラ記録館：京畿道城南市始興洞大旺板橋路 398
3) 東京大学農学生命科学研究科：東京都文京区弥生 1-1-1

日本語要旨

大徳寺文書料紙の簀の目数を，透過光写真の画像のフーリエ変換により測定した。料紙 309 点の測定結果では, 8～25 本/寸と分布が広く, 平均値は 16.4 本/寸であった。書記年代がわかる 1168 年から 1708 年の間の料紙 282 点について，135 年ごとの 4 期に分けて変遷を見ると，第 1 期の 14.5 本/寸から第 4 期の 19.0 本/寸へ増加していた。同期でも非常に分布が広いことから, 同一の産地でも目数の異なる複数の簀を使い分けていた可能性を否定できないが, 現実的には地域ごとに特徴的な坪量で紙を漉くという分業体制が形成されていたと想像される。料紙の厚さ又は坪量が大きい場合は簀の目数が少なくなる傾向を示しており, 脱水の遅い抄紙では迅速化のために必然的に粗い目の簀を使う工夫があったと考えられる。文書様式別では綸旨料紙は軽量でありながら目数の多い簀を使用していたこと, 戦国武将は打ち紙処理した高密度料紙を好んで使用したことが明らかとなった。

Chronological change in frequency of laid lines of document papers from 12th to early 18th centuries housed in Daitokuji temple

Yoon-Hee Han[1, 2)], Toshiharu Enomae[3)], Michihisa Hotate[1)], Akira Isogai[3)]

1) Historiographical Institute, The University of Tokyo
Hongo 7-3-1, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan

2) Current affiliation: Nara Repository, National Archives of Korea
398 Shiheung-dong Daewangpangyro, Seongnam, Gyeonggi-do, Korea

3) Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo
Yayoi 1-1-1, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8657, Japan

Abstract

The frequency of the laid lines originating from bamboo splints of a papermaking screen was measured with the Daitokuji documents. Light transmission images of the papers comprising the documents were subjected to the two-dimensional Fast Fourier Transform (FFT) and the frequency of the laid lines was calculated from the position of the main spots in the power spectrum as the number of lines per "sun", the traditional length unit equal to 30.3 mm. From the data of 309 sheets of paper document, it ranged between 8 and 25 lines/sun and the mean was 16.4 lines/sun. The data of the 282 sheets of which written year ranged between 1168 and 1708 A.D. as clearly recognized from the signed date and era name, showed that the mean frequency increased from 14.5 to 19.0 lines/sun during this period. However, the frequency distribution was very wide even in the same era. This fact might suggest that paper manufactures owned plural papermaking screens with different frequencies of the laid lines and selected the adequate one to the manufactured paper, but more practically, one can speculate that regional division of labor under the characteristic paper thickness was established. For these 282 sheets, the frequency tended to be lower as the paper thickness increased. It was considered as a logical explanation that thicker sheets required a longer time until the wet paper web drains completely, therefore, paper manufactures use papermaking screens with lower frequencies of the laid lines for thicker papers to raise production efficiency by reducing the drainage time.

キーワード

簀の目: 大徳寺文書: フーリエ変換: 料紙: 厚さ.

Key words

laid lines: Daitokuji documents: Fourier Transform: writing paper: thickness.

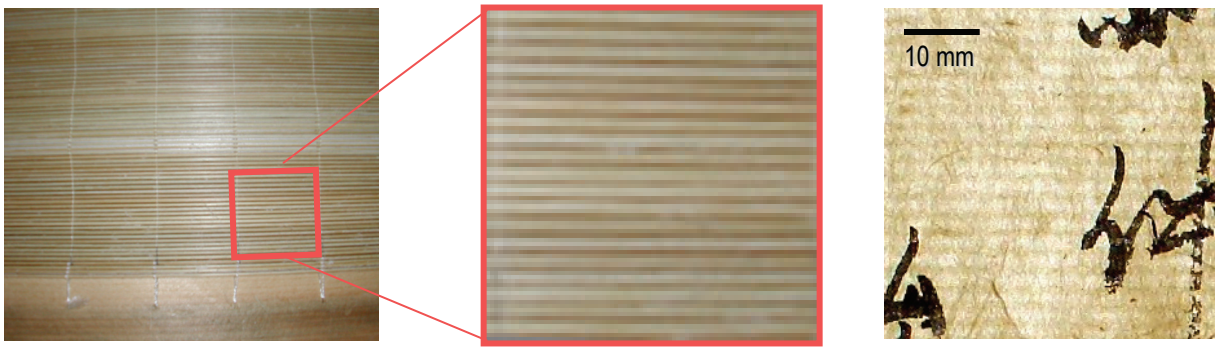

図 1 抄紙具である簀と簀の目の跡が残る大徳寺文書料紙の例

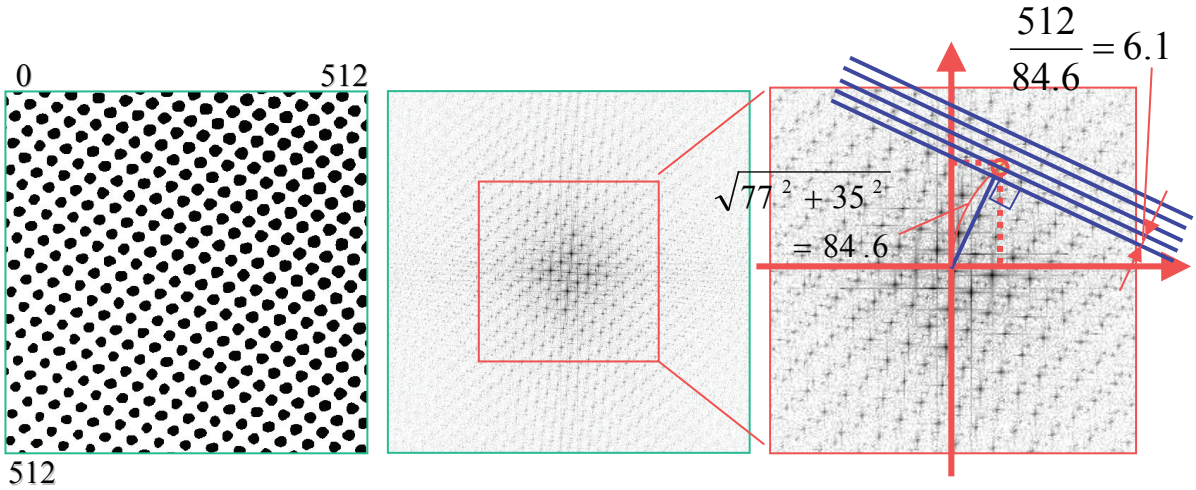

図 2 二次元フーリエ変換により周期性の間隔を求める方法の例

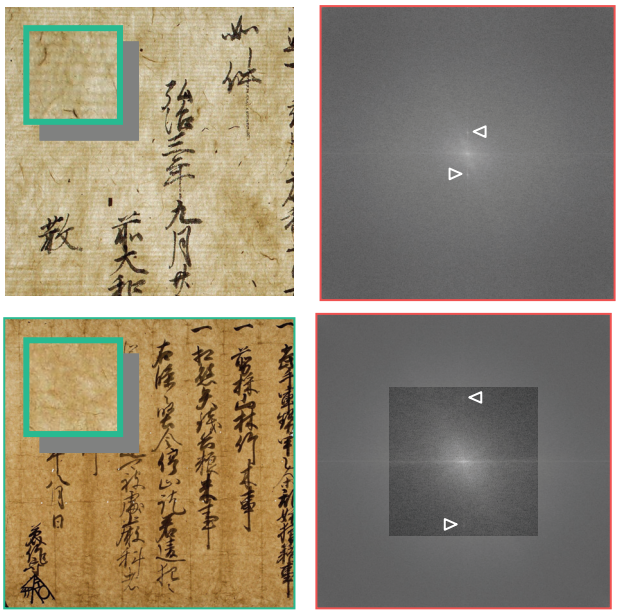

図 3　古文書の透過光像（左）とパワースペクトル（右）。透過光像の一部は、小枠で拡大図を示している。上段は簀の目が目視でも十分数えられる場合で、下段は目視では簀の目が観察できないと判断される例である。

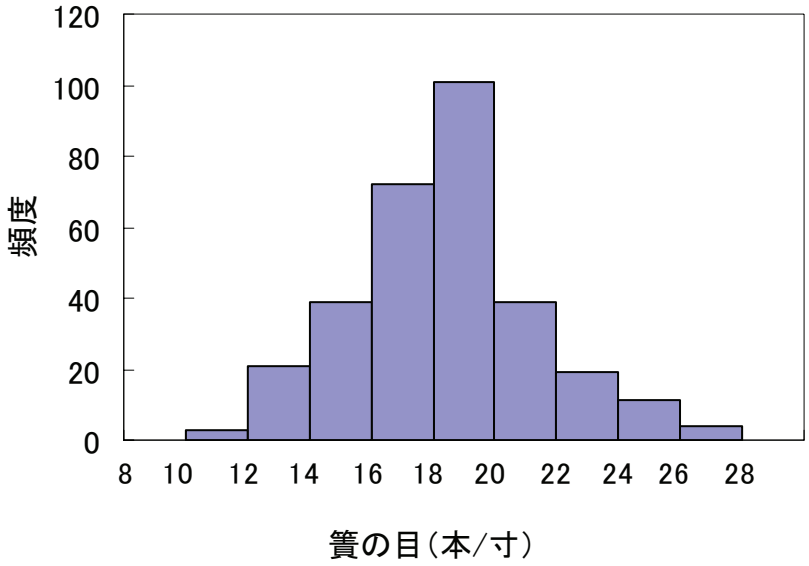

図 4 大徳寺文書料紙 309 点での簀の目数（本/寸）の分布

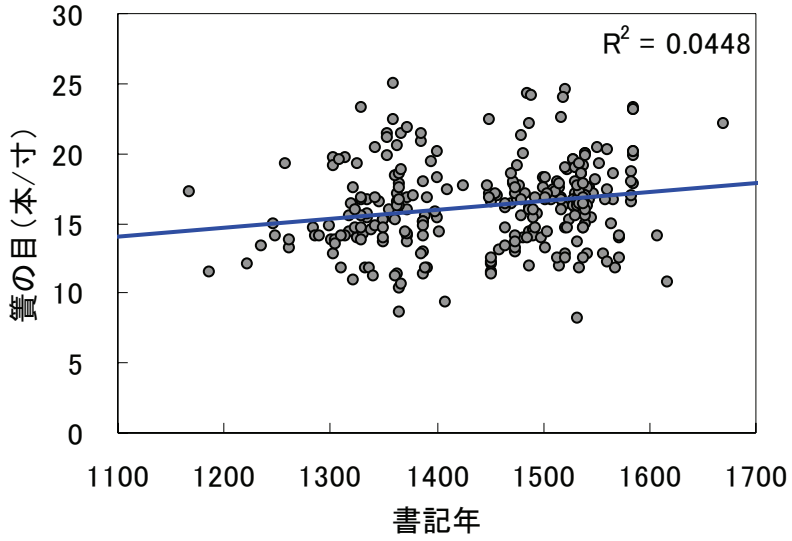

図 5 大徳寺文書料紙 248 点での簀の目数の歴史的変遷

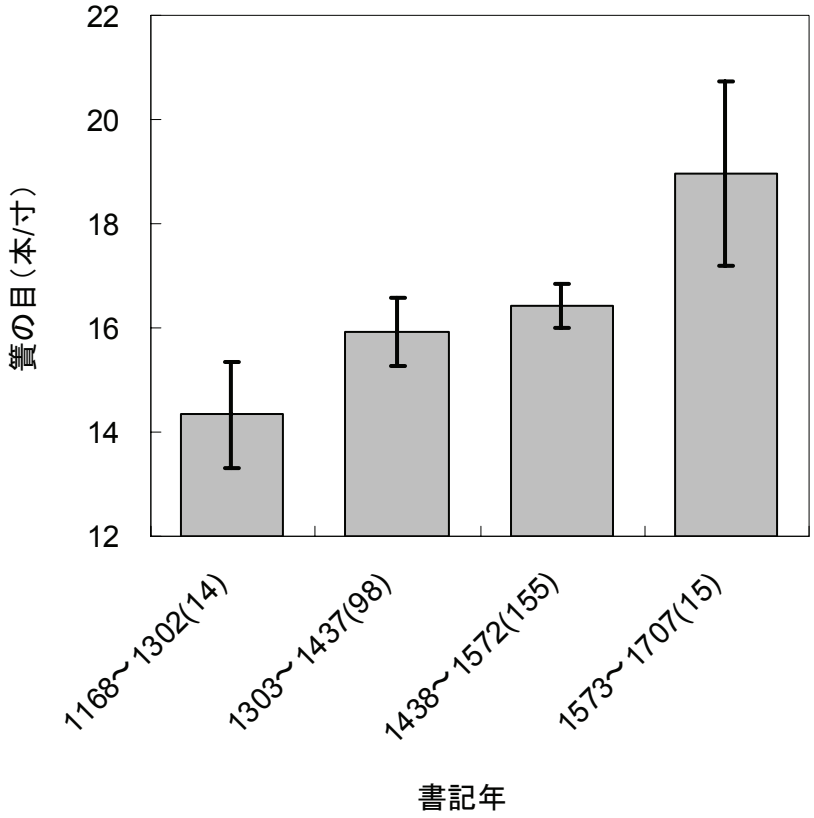

図 6 大徳寺文書料紙の簀の目数の 135 年ごとの歴史的変遷.（括弧内は調査対象料紙数）

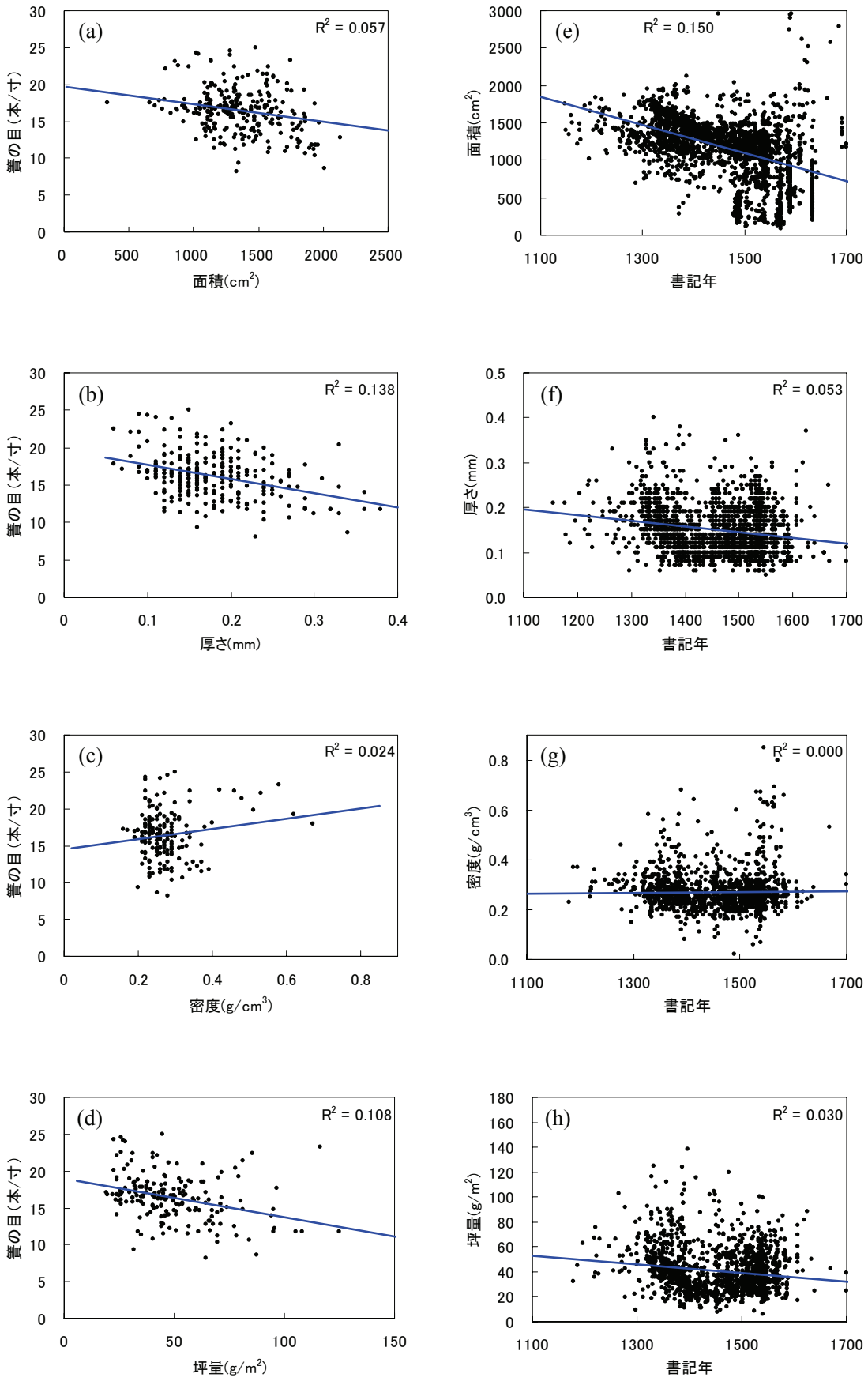

図 7 大徳寺文書料紙の各種物性と簀の目数との関係及び物性の歴史的変遷

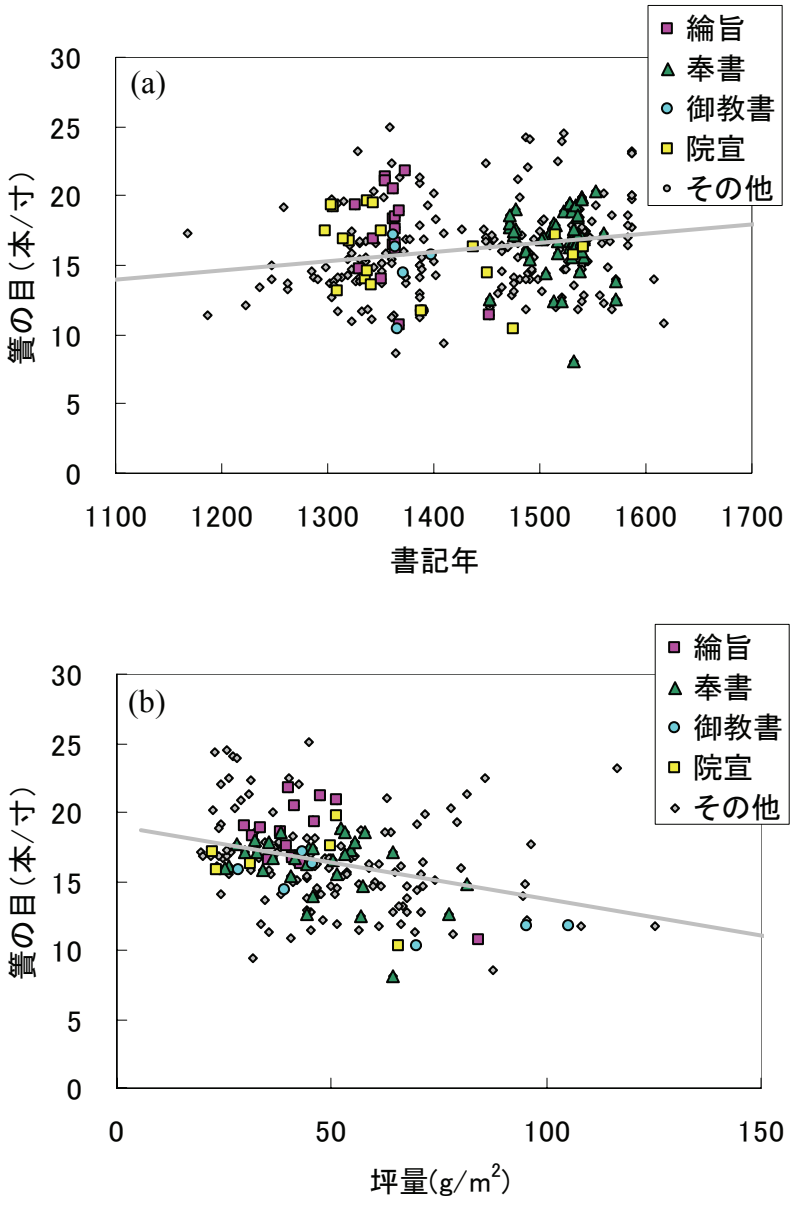

図 8 大徳寺文書の様式と料紙の簀の目数との関係

表 1 大徳寺文書料紙の物性及び簀の目数（空白の欄は不明）

刊本文書番号 表示用小番号	書記年	文書名	楮・斐・ 三別	紙質	面積 (cm^2)	厚さ (mm)	密度 (g/cm^3)	坪量 (g/m^2)	簀の目 (本/寸)
161		西園寺実俊書状	楮紙		1722				20.1
163	1187	後白河法皇院宣	楮紙	杉原	1724	0.12	0.37	45	11.4
165	1321	検非違使庁施行状	楮紙	檀紙（白麻）	1764	0.27	0.27	71	16.4
167	1326	後醍醐天皇綸旨			1726	0.18	0.26	46	19.3
168	1329	妙法院宮尊澄法親王請文	楮紙	引合	1751	0.20	0.58	117	23.2
171	1333	新田義貞寄進状	楮紙	檀紙	1941	0.32	0.39	125	11.7
172	1337	光厳上皇院宣	楮紙	檀紙	1940	0.32	0.34	108	11.8
173	1338	光厳上皇院宣	楮紙	檀紙（白麻）	1663	0.17	0.29	51	14.4
178	1354	後光厳天皇綸旨			1571	0.16			21.4
179	1354	後光厳天皇綸旨			1619	0.21	0.23	48	21.1
190	1365	足利義詮御判御教書	楮紙	檀紙（白麻）	1605	0.16	0.29	45	16.3
191	1365	足利義詮書状	楮紙	杉原（白麻）	1527	0.13	0.27	35	17.8
192	1366	足利義詮安堵御判御教書	楮紙	強杉原	1936	0.24	0.29	70	10.3
193	1367	後光厳天皇綸旨	楮紙	強杉原	1867	0.27	0.32	84	10.7
197	1399	足利義満御判御教書	楮紙	杉原	1420	0.10	0.28	29	15.8
202	1477	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原	1259	0.15			19.0
203	1478	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原	1334	0.11	0.26	28	17.6
217	1500	室町幕府奉行人連署下知状	楮紙	杉原	1243	0.19	0.27	50	17.5
218	1502	室町幕府奉行人連署下知状	楮紙	杉原	1282	0.16	0.26	41	16.7
219	1502	真珠庵紹岱〈北海〉祠堂銭取次状	楮紙	強杉原	1521	0.21	0.31	66	13.2
227	1517	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原	1327	0.16	0.23	36	16.7
229	1522	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1317	0.19	0.27	52	18.9
233	1534	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原	1258	0.27	0.24	64	17.0
251		延暦寺山門目代禁制	楮紙	雑紙（美濃）	1315	0.12	0.34	40	22.4
252	1538	細川晴元禁制	楮紙	引合（しぼ）	1756	0.23	0.3	70	19.1
253	1538	後奈良天皇女房奉書	楮紙	強紙（簀肌）	1504	0.24	0.24	57	14.6
263	1553	丹下盛知・安見宗房連署禁制	三椏紙		1854	0.13	0.62	79	19.3
266	1531	宗器〈伝庵〉書状	三椏紙		821	0.14	0.34	46	16.1
267	1557	室町幕府奉行人連署禁制	楮紙	杉原	1756	0.23	0.28	64	12.8
293		足利義輝御内書	楮紙	引合（しぼ）	1862	0.18	0.33	60	14.9
305	1566	大工藤原宗次孫岩千代丸・同娘福一連署証文	楮紙	雑紙	1140	0.20	0.28	54	16.7
307	1568	織田信長禁制案	楮紙	強杉原(下)	1390	0.22	0.27	61	11.8
316	1302	三条実盛譲状	楮紙	檀紙	1838	0.25	0.28	67	13.7
318	1305	亀山法皇院宣	楮紙	檀紙	1769	0.21			13.8
319	1310	後宇多法皇院宣（後欠）	楮紙	檀紙	1794	0.24			14.1

刊本文書番号 表示用小番号		書記年	文書名	楮・斐・ 三別	紙質	面積 (cm^2)	厚さ (mm)	密度 (g/cm^3)	坪量 (g/m^2)	簀の目 (本/寸)
320		1310	伏見上皇院宣	楮紙	檀紙	1958	0.29			11.7
321			葉室光顕奉書	楮紙	檀紙	1833	0.25	0.32	81	14.8
337	1	1222	尼顕蓮譲状案				0.18			12.1
337	2	1247	僧快真置文案							15.0
337	3	1285	僧快源譲状案							14.6
337	4	1299	僧泰豪譲状案							14.8
338		1343	光厳院院宣	楮紙	檀紙（白麻）	1592	0.22	0.26	57	14.8
341		1346	光厳院院宣	楮紙	檀紙	1604	0.13	0.28	36	16.5
346	2		名田庄須恵野村相伝系図							14.1
346	3	1248	尼生仏譲状案							14.0
346	5	1314	僧経乗譲状案							14.1
346	6	1331	僧勝深安堵状案							14.2
346	8	1286	文殿注進状案							14.1
346	9	1290	後深草上皇院宣案							14.0
346	11	1305	後宇多上皇院宣案							13.5
348			光厳院院宣	楮紙	檀紙	1635				17.7
351		1400	光厳院院宣	楮紙	檀紙（白麻）	1657	0.16	0.27	44	15.3
352		1350	光厳院院宣案	楮紙	杉原	1607	0.19	0.27	50	14.6
353	1	1350	藤原清季・同盛忠連署起請文案	楮紙	杉原		0.19			15.2
357		1353	花山院覺圓〈兼信〉寄進状	楮紙	引合（中）	1565	0.14	0.51	72	19.9
364	1		名田庄相伝系図							19.4
364	2	1168	名田郷開発領主盛信相博状案							17.3
364	5	1258	安居院観空〈実忠〉譲状案							19.2
364	7	1315	後宇多法皇院宣案							19.6
364	8	1304	亀山法皇院宣案							19.1
364	9	1303	三条実盛譲状案							19.7
366		1360	花山院覺圓〈兼信〉寄進状	楮紙	檀紙	1576	0.19	0.46	86	22.4
369		1343	後光厳天皇綸旨			1640	0.16	0.26	41	16.9
370		1362	後光厳天皇綸旨			1587	0.14	0.23	32	18.3
372			後光厳天皇綸旨（後欠）			1512	0.12	0.25	30	18.9
373	1	1363	弾正親王〈邦省〉庁申状	楮紙	檀紙	1899	0.24			11.4
373	2	1360	花山院覺圓〈兼信〉譲状案	楮紙	杉原		0.14			15.4
376		1363	後光厳天皇綸旨			1569	0.16	0.26	41	20.5
377		1363	後光厳天皇綸旨			1446	0.16	0.23	35	16.5
378		1364	後光厳天皇綸旨			1676	0.16	0.28	43	16.2
380		1365	後光厳天皇綸旨	楮紙		1494	0.18	0.22	39	17.6
382		1365	藤原行清寄進状	楮紙	檀紙（厚紙）	2011	0.34	0.25	88	8.6

384		1365	後光厳天皇綸旨			1446	0.15	0.25	38	18.5

刊本文書番号	表示用小番号	書記年	文書名	楮・斐・三別	紙質	面積 (cm^2)	厚さ (mm)	密度 (g/cm^3)	坪量 (g/m^2)	簀の目 (本/寸)
386		1365	後光厳天皇綸旨			1446	0.14	0.29	41	16.6
388		1367	後光厳天皇綸旨	楮紙		1579	0.14	0.23	34	18.8
397		1373	後圓融天皇綸旨			1492	0.16	0.25	40	21.8
455	1	1262	藤原光弘置文	楮紙	檀紙	1321	0.19			13.2
455	2		藤原光弘売券	楮紙	檀紙	1400	0.20			12.9
455	3	1262	沙弥縁仏後家尼住妙譲状	楮紙	強杉原	1448	0.21			13.7
455	4	1235	大法師任増等連署押書	楮紙	強杉原	1674	0.26			13.4
457		1303	松鶴女田地売券	楮紙	檀紙	1314	0.18	0.37	68	12.7
463			後醍醐天皇綸旨			1615	0.22	0.23	51	20.9
464		1330	僧兼圓并大宮局連署堂舎敷地寄進状	楮紙	檀紙	1550	0.23	0.24	56	16.8
465		1330	後醍醐天皇綸旨			1661				14.7
466		1330	僧兼圓并大宮局連署堂舎敷地売券	楮紙	檀紙	1656				15.5
476		1335	左衛門尉助行施行状	楮紙	檀紙（白麻）	1563	0.24	0.22	52	15.3
477		1335	信濃國宣	楮紙	檀紙（白麻）	1658	0.21	0.25	54	15.6
481		1335	雑訴決断所牒	楮紙	檀紙（白麻）	1606	0.22	0.23	50	16.7
486		1341	光厳院院宣	楮紙	強杉原	1931	0.33	0.24	78	11.2
518		1472	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1329	0.16	0.23	35	17.8
519		1472	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1329	0.15	0.22	32	18.0
523		1480	宗順〈一休〉田地寄進状	楮紙	引合（中）	1862	0.20	0.27	54	15.5
532	1	1514	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1023	0.17			12.4
532	2	1514	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1121	0.17			18.0
532	3	1528	足利義維奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1311	0.22			16.7
532	4	1528	足利義維奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1312	0.21			19.5
532	5	1529	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1114	0.19			19.5
532	6	1529	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1114	0.19			16.3
532	7	1531	茨木長隆奉書	楮紙	杉原（白麻）	1308	0.26			15.6
532	8	1531	茨木長隆奉書	楮紙	杉原（白麻）	1215	0.25			18.9
532	9	1534	茨木長隆奉書	楮紙	杉原（白麻）	1197	0.23			19.3
535		1521	後柏原天皇女房奉書	楮紙	強紙（簀肌）	1482	0.22	0.26	57	12.4
549			足利義晴御内書	楮紙	杉原（白麻）	1383	0.19	0.34	63	21.0
558		1531	真壁治継折紙案	楮紙	杉原	1043	0.10	0.26	26	17.0
566		1532	傳奏勧修寺尹豊奉書	楮紙	杉原（白麻）	1380	0.21	0.25	50	16.5
568		1533	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原	1303	0.19	0.22	41	16.7
570		1533	佐佐木〈六角〉定頼書状	楮紙	杉原（白麻）	1273	0.25	0.23	59	16.0
577		1536	茨木長隆奉書	楮紙	杉原	1354	0.24	0.24	58	18.5
598	2	1542	宗★〈天啓〉書状案	楮紙	雑紙（美濃）	1210	0.13			12.8

598	4	1309	後宇多法皇院宣案							19.5

刊本文書番号表示用	小番号	書記年	文書名	楮・斐・三別	紙質	面積 (cm^2)	厚さ (mm)	密度 (g/cm^3)	坪量 (g/m^2)	簀の目 (本/寸)
644			信濃伴野庄領家方年貢以下注文案	楮紙	檀紙（厚紙）	1783	0.31	0.26	80	15.9
656		1363	足利義詮御判御教書	楮紙	檀紙（白麻）	1572	0.15	0.29	43	17.1
658		1371	室町将軍〈足利義満〉家御教書	楮紙	檀紙（白麻）	1504	0.16	0.25	39	14.4
701		1501	赤松則貞遵行状	楮紙	杉原（白麻）	1344	0.20	0.23	46	18.2
705		1517	宗意書状	楮紙	杉原	1087	0.11	0.24	26	16.9
706		1517	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1299	0.16	0.22	34	15.9
707		1517	室町幕府奉行人連署奉書案	楮紙	杉原	881	0.06	0.42	26	22.5
712		1532	赤松氏年寄連署奉書	楮紙	杉原	1335	0.23	0.28	64	8.1
715			氏名未詳消息	楮紙	強杉原	1574	0.27	0.36	96	12.2
734		1361	沙弥善忠〈土岐頼康〉書状	楮紙		1607	0.16	0.25	40	15.2
736		1503	勧修寺政顕書状	楮紙		1274	0.15			18.3
739		1536	後奈良天皇女房奉書	楮紙		1522	0.19	0.28	53	18.6
743		1539	佐佐木〈六角〉定頼書状	楮紙	杉原	1252	0.23	0.21	47	16.2
747			佐佐木〈六角〉義賢書状	楮紙		1377	0.27	0.25	66	16.1
772		1510	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原	1364	0.20	0.23	45	17.4
783			斎藤基雄書状案	楮紙	杉原	1113	0.13	0.21	26	15.5
785		1511	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原	1340	0.21	0.25	55	17.2
795		1516	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	檀紙	1336	0.25	0.22	55	17.8
798		1521	三条殿局消息	楮紙	強紙（しぼ）	1432	0.19	0.23	45	12.8
804		1372	沙弥観教文書紛失状	楮紙						16.0
805		1378	賀茂大神宮政所下知状	楮紙	杉原	1445	0.16	0.26	42	16.9
808		1389	大内記邦貞料田寄進状	楮紙	杉原	1472	0.16	0.22	36	15.6
809		1395	賀茂大神宮政所下知状	楮紙	雑紙	1313	0.16	0.29	46	19.4
811		1401	大徳寺鍛冶大工職補任状	楮紙	杉原	1103	0.15	0.28	41	18.3
817		1470	けんり下地譲状	楮紙	杉原	956	0.11	0.28	31	16.4
821		1474	二郎衛門田地売券	楮紙	杉原	1488	0.20	0.23	44	12.9
824	1	1475	宗昭〈晦翁〉寄進状	楮紙	杉原	1262	0.18	0.29	51	14.1
824	2	1491	宗昭〈晦翁〉寄進状	楮紙	雑紙	1120	0.12	0.21	24	14.0
827		1475	賀茂大神宮政所下知状	楮紙	強杉原	1371	0.29	0.22	66	13.1
831		1481	淡路守氏胤田地売券	楮紙	雑紙	1325	0.14	0.25	36	20.0
832		1481	賀茂山本兵衛四郎作職預リ状	楮紙	杉原	1088	0.18	0.26	46	13.9
835	1	1483	浄金左衛門五郎下地年貢売券	楮紙	杉原	1127	0.11			17.1
835	2	1486	次郎三郎外一名連署下地年貢売券	楮紙	杉原	1171	0.11			13.9
839		1486	兵庫貞家下地譲状	楮紙	杉原	1018	0.10	0.22	23	24.3
840		1487	大賀茂大工宗吉田地売券	楮紙	強杉原	1208	0.29	0.23	66	11.8

843	1490	河匂元重料田寄進状	楮紙	雑紙	1034	0.11	0.26	27	24.1
刊本文書番号 表示用小番号	書記年	文書名	楮・斐・ 三別	紙質	面積 (cm^2)	厚さ (mm)	密度 (g/cm^3)	坪量 (g/m^2)	簀の目 (本/寸)
845	1493	姫女田地売券	楮紙	強杉原	1171	0.20	0.31	61	14.7
847	1495	善光田地売券		雑紙	1469	0.20	0.32	65	15.6
852	1499	次郎衛門田地売券	楮紙	強杉原	1366	0.36	0.26	94	14.0
858	1504	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原	1242	0.15	0.2	30	17.0
865	1508	尊勝院内彦四郎田地売券	楮紙	杉原	1054	0.15	0.34	49	16.7
884	1516	羅地田本役請取状		雑紙	335	0.09	0.38	33	17.5
885	1516	慈光庵宗清田地寄進状	楮紙	雑紙	1235	0.18	0.29	51	11.9
889	1519	左衛門五郎田地売券	楮紙	雑紙	1129	0.20	0.3	58	16.2
890	1520	大橋又次郎代宗範田地売券	楮紙	雑紙	1283	0.13	0.22	28	24.0
893	1522	西野盛寿田地売券	楮紙	雑紙	1072	0.24	0.25	60	14.7
894	1522	宗範・聖隆連署田地寄進状	楮紙	雑紙	1282	0.09	0.28	26	24.5
897	1524	道堅百姓職売券	楮紙	雑紙	1092	0.28	0.26	71	14.7
902	1524	黄檗屋御福田地売券	楮紙	雑紙	1084	0.08	0.31	24	18.8
905	1526	次郎左衛門・孫兵衛連署下作職預リ状	楮紙	雑紙	1111	0.15	0.29	44	15.2
907		進藤長義消息	楮紙	杉原	1028	0.12	0.19	23	16.0
912	1533	興臨院納所宗★〈天啓〉請文	楮紙	杉原	1135	0.14	0.26	35	15.8
915	1533	茨木長隆奉書	楮紙	杉原	1359	0.17	0.26	44	16.3
920	1533	大徳寺同諸塔頭并諸寮舎領目録	楮紙	雑紙		0.19			13.6
938	1541	清蔵口大みせ屋道誓作職売券	楮紙	雑紙	1109	0.15	0.28	41	16.3
940	1542	西村光清・同道春連署作職売券	楮紙	雑紙	1131	0.21	0.3	61	16.2
941	1548	智永田地売券	楮紙	雑紙	1206	0.14	0.26	37	17.1
945	1559	田中秀則畠地預ケ状	楮紙	雑紙	758	0.10	0.33	33	16.6
946	1561	紹?等連署山林売券	楮紙	雑紙	1460	0.18	0.27	48	12.2
947	1561	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原	1248	0.19	0.24	46	17.4
948	1561	三淵宗薫書状	楮紙	杉原	1089	0.12	0.23	28	20.2
951	1565	栽松軒納所宗圓請文	楮紙	雑紙	1416	0.15	0.27	41	14.9
956	1567	松村重盛・同子息兼重連署作職売券	楮紙	雑紙	1215	0.20	0.31	63	18.6
972	1607	真常軒納所紹弘・玉雲軒納所宗茂連署預リ状	楮紙	雑紙	1464	0.18	0.27	47	14.0
980	1617	大徳寺役者連署状	楮紙	雑紙	1578	0.17	0.23	41	10.8
984	1669	大徳寺仏殿常燈料壁書	斐紙	厚紙	2573	0.08	0.53	42	22.0
985	1707	雲林院宗寛〈江西〉証文	楮紙	檀紙	2561	0.33	0.24	78	20.3
1085	1505	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙		1339				14.4
1159	1541	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原	1294	0.17	0.29	51	15.6

1216		1583	今村家次文書紛失状	楮紙	杉原	878	0.18	0.25	43	16.5
刊本文書番号 表示用小番号		書記年	文書名	楮・斐・ 三別	紙質	面積 (cm^2)	厚さ (mm)	密度 (g/cm^3)	坪量 (g/m^2)	簀の目 (本/寸)
1218		1583	紫竹宗寿田地作職売券	楮紙	強杉原	1102	0.19	0.29	55	17.9
1219		1583	紫竹宗寿田地作職寄進状	楮紙	強杉原	1112	0.18	0.31	57	18.7
1230		1471	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1343	0.17	0.22	38	18.6
1236	4		妙雲院主聖瑞〈竺英〉消息	楮紙	杉原		0.17			18.0
1236	5	1475	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1311	0.16	0.2	33	17.1
1236	6	1487	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原	1268	0.13	0.19	26	16.1
1236	7	1487	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1270	0.11	0.23	25	16.0
1236	8	1491	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1388	0.17	0.23	40	15.4
1236	9	1465	多賀清忠寄進状	楮紙	杉原		0.13			13.4
1236	10	1465	多賀清忠置文	楮紙	杉原		0.14			14.6
1236	11	1477	多賀秀長寄進状	楮紙	杉原	1170	0.10	0.24	25	16.7
1246		1492	養徳院雑掌初問状案	楮紙	杉原	1497	0.16	0.29	47	14.5
1297		1330	道清田地譲状	楮紙	雑紙	1237	0.15	0.33	49	16.6
1298		1330	海崎熊鶴左近田地売券	楮紙	杉原	1239	0.15	0.29	44	13.8
1353		1373	長芦寺目安	楮紙	雑紙	1494	0.11	0.21	22	16.9
1374		1400	満松寺尼恵玄〈要関〉寺領安堵状	楮紙	杉原	1564	0.09	0.25	22	20.1
1431		1359	そうしやう〈北畠親子〉敷地寄進状	楮紙	檀紙	1475	0.15	0.3	45	25.0
1529		1552	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	雑紙	1246	0.17			20.4
1542	1	1452	土御門宗瑞〈定長〉敷地寄進状	楮紙	強杉原	1824	0.22			12.3
1542	2	1452	土御門宗瑞〈定長〉寄進敷地指図	楮紙	強杉原	1814	0.21			12.0
1542	3	1452	土御門敷地相伝系図	楮紙	薄紙	1809	0.19	0.29	56	11.5
1543		1452	後花園天皇宸筆女房奉書	楮紙	強杉原	1808	0.24	0.33	77	12.6
1545		1452	後花園天皇綸旨	楮紙	杉原	1584	0.16			11.4
1562	1	1539	後奈良天皇綸旨	楮紙	杉原（白麻）	1396	0.22			16.3
1562	4	1539	勧修寺尹豊御教書	楮紙	杉原	1283	0.19			16.3
1562	5	1539	茨木長隆折紙	楮紙	杉原	1147	0.20			16.9
1562	6	1539	茨木長隆折紙	楮紙	杉原	1120				17.4
1563	2	1539	如意庵雑掌申状案	楮紙	杉原	1001	0.11			16.1
1563	4	1539	進藤貞治奉書案	楮紙	杉原	739	0.11			17.8
1563	5	1539	室町幕府奉行人連署問状案	楮紙	杉原	869	0.12			16.6
1563	7	1539	大館晴光奉書案	楮紙	杉原（白麻）	930	0.20			16.8
1563	11	1494	西村宗久畠地買券	楮紙	杉原	939	0.13			16.9
1565		1541	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1299	0.22	0.24	53	16.9
1651			洞院実熙書状	楮紙	引合（しぼ）	1429	0.21	0.3	64	18.5

1656		1457	宗慧大照禅師号口宣案			1480	0.24	0.19	45	16.9
刊本文書番号 表示用小番号		書記年	文書名	楮・斐・ 三別	紙質	面積 (cm^2)	厚さ (mm)	密度 (g/cm^3)	坪量 (g/m^2)	簀の目 (本/寸)
1699		1488	平方道林田地売券	楮紙	杉原	785	0.09	0.27	24	22.1
1788		1343	光厳上皇院宣	楮紙		1647				20.3
1798		1535	大清軒宗球〈天琢〉田地寄進状	楮紙	杉原	1241	0.12	0.28	33	11.8
1815		1537	大用庵領支証目録	楮紙	杉原	1583	0.14	0.23	32	18.5
1817		1455	國正陽春庵敷地等寄進状	楮紙	杉原	1550	0.07			17.1
1895			龍崎勝久書状	楮紙	杉原	1320	0.12	0.21	24	19.1
1898		1391	土岐満貞所領寄進状	楮紙	雑紙（美濃）	1509	0.10	0.23	24	16.9
1901		1409	業定王等連署紛失状	楮紙	杉原	1351	0.16	0.2	32	9.4
1907		1449	福聚寺宗蕙書状	楮紙	杉原	965	0.14	0.22	31	22.3
1908		1449	宇足長賢敷地預リ状	楮紙	杉原	1338	0.12	0.17	19	17.0
1913		1460	土御門屋地御判出時銭納下帳	楮紙	杉原		0.14			13.0
1967		1545	如意庵方丈上葺銭納下帳	楮紙	杉原		0.12			15.3
2112		1410	衛門五郎等起請文	楮紙		1125				17.4
2189		1322	沙弥兼好〈卜部兼好〉田地売券	楮紙		1688				17.5
2190		1322	沙弥兼好〈卜部兼好〉田地寄進状	楮紙		1709				10.9
2194	1	1539	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原	1210				16.9
2194	2	1539	納所賢光等敷地売券	楮紙	杉原	1156	0.15			12.5
2194	3	1539	納所賢光等敷地売券	楮紙	杉原	1157	0.15			14.7
2194	4	1540	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1147	0.24			19.9
2194	5	1540	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1142	0.20			19.9
2194	6	1540	茨木長隆奉書	楮紙	杉原（白麻）	1191	0.22			16.9
2194	7	1540	茨木長隆奉書	楮紙	杉原（白麻）	1172	0.19			19.8
2194	8	1540	茨木長隆奉書	楮紙	杉原	1145	0.17			16.0
2194	9	1540	波波伯部元継書状	楮紙	杉原	923	0.14			15.0
2194	10	1535	飯尾元運奉書	楮紙	杉原	1096	0.21			17.2
2194	11		飯尾元運書状	楮紙	杉原	1044	0.17			15.9
2194	12		高畠長信書状	楮紙	杉原	913	0.15			17.1
2194	13	1543	半隠軒宗三〈三好政長〉書状	楮紙	杉原	665	0.19			17.5
2194	14	1543	半隠軒宗三〈三好政長〉書状	楮紙	杉原	706	0.15			17.1
2194	15	1543	半隠軒宗三〈三好政長〉書状	楮紙	杉原	1023	0.12			16.6
2194	16	1543	半隠軒宗三〈三好政長〉書状	楮紙	杉原	1052	0.21			17.5
2268		1549	三好長慶書状	楮紙	杉原（白麻）	1246	0.11	0.4	44	18.2
2269			若槻長澄・斎藤長房連署書状	楮紙	杉原（白麻）	933	0.16	0.16	26	17.3
2284		1542	大内義隆下知状案	楮紙	杉原	1292	0.18	0.29	52	17.5
2306			崇光上皇院宣	楮紙	強杉原	1940				17.4

2345	1	1464	妙雲院主聖瑞〈竺英〉置文案	楮紙	杉原	1388	0.17			16.1
刊本文書番号表示用小番号		書記年	文書名	楮・斐・三別	紙質	面積 (cm^2)	厚さ (mm)	密度 (g/cm^3)	坪量 (g/m^2)	簀の目 (本/寸)
2345	2	1465	妙雲院主聖瑞〈竺英〉寄進状案	楮紙	杉原	1409	0.18			16.4
2345	3	1475	足利義政御判御教書案	楮紙	強杉原	1471	0.24			13.7
2345	5	1480	室町幕府奉行人連署奉書案	楮紙	杉原	1271	0.15			16.6
2345	6	1491	室町幕府奉行人連署奉書案	楮紙	杉原	1190	0.15			15.9
2346		1475	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙	杉原（白麻）	1296				17.5
2359		1533	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙		1301				17.6
2367		1534	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙		1231				16.4
2379		1479	宗熙〈春浦〉置文	楮紙		1260				17.0
2380		1502	室町幕府奉行人連署奉書	楮紙		1305				16.9
2396		1488	美濃國長森内領家方年貢銭注文	楮紙	雑紙（美濃）		0.12			14.4
2400		1361	比丘尼しやうふつ譲状案	楮紙	杉原	1323	0.30	0.23	70	11.2
2410		1572	正親町天皇女房奉書	楮紙	強紙（簀肌）	1451	0.21	0.22	45	13.9
2411		1572	正親町天皇女房奉書	楮紙	強紙（簀肌）	1385	0.21	0.21	44	12.5
2412		1572	正親町天皇女房奉書案	楮紙	強紙（簀肌）	1389	0.21	0.22	48	14.0
2604		1479	尾和宗臨寄進状	楮紙		1418				21.2
2608		1402	如意庵文書目録	楮紙						14.3
2652		1448	土御門有通家雑掌申状案	楮紙	檀紙（厚紙）	1584	0.29	0.33	97	17.6
2662		1449	桧皮屋近國請文	楮紙	杉原	1260	0.09	0.22	20	16.8
2679		1452	如意庵領土御門敷地四丁町地子目録	楮紙	雑紙（美濃）		0.13			16.4
2713	1	1326	尼清阿田地譲状	楮紙	杉原		0.17			13.9
2713	2	1350	尼忍法等連署紛失状	楮紙	杉原	1138	0.15			13.6
2713	3	1355	安女田地売券	楮紙	杉原	1575	0.17			15.9
2713	4	1373	國重田地譲状	楮紙	杉原	1116	0.12			14.1
2713	5	1373	國重田地売券	楮紙	杉原	1093	0.16			13.6
2713	6	1373	國重田地売券	楮紙	杉原	1108	0.14			14.2
2713	7	1387	春松田地売券	楮紙	杉原	1093	0.12			12.9
2713	8	1387	長秀下作職請文	楮紙	杉原	929	0.12			17.9
2783		1318	某袖判杭全庄田所職補任状	楮紙	杉原	1677	0.26	0.27	71	15.5
2784		1318	資継副状	楮紙	杉原	1816	0.25	0.28	70	14.3
2800		1426	宗□位牌料足寄進状	楮紙	杉原	1466	0.16	0.23	38	17.6
2934		1368	義亨〈徹翁〉書状案	楮紙	檀紙	1536	0.17	0.48	81	21.4
2941		1387	浦上景祐田地寄進状	楮紙	檀紙	1469	0.20	0.37	74	15.0
3016		1386	下司宗安後家山地売券	楮紙	杉原	1232	0.14	0.22	31	21.4
3017		1387	河毛衛門二郎畠地売券	楮紙	杉原	1158	0.15	0.25	38	14.1
3019		1387	下司宗安後家山地寄進状	楮紙	杉原	1139	0.16	0.27	42	15.0

3020		1387	下司宗安後家下地寄進状	楮紙	杉原	1161	0.14	0.26	35	11.3
刊本文書番号 表示用小番号		書記年	文書名	楮・斐・ 三別	紙質	面積 (cm^2)	厚さ (mm)	密度 (g/cm^3)	坪量 (g/m^2)	簀の目 (本/寸)
3021		1386	梶井宮〈明承法親王〉令旨	楮紙	檀紙	2129	0.20	0.35	71	12.7
3033		1531	朝倉孝景奉行人連署書状	斐紙	薄様	772	0.06	0.67	38	17.9
3058		1391	足利義満御判御教書	楮紙	強杉原	1910	0.38	0.28	105	11.7
3062		1323	式部卿宮〈久明親王〉令旨	楮紙	檀紙	1766	0.27	0.25	67	14.7
3063		1323	式部卿宮〈久明親王〉令旨	楮紙	檀紙	1856	0.19	0.26	50	15.9
3077			白川業定書状	楮紙	杉原	1502	0.14	0.25	35	13.6
3079		1386	宗妙起請文	楮紙	杉原	1342	0.10	0.3	29	20.9
3081		1388	土岐満貞寄進状	楮紙	強杉原	1966	0.33	0.29	95	14.7
3088		1389	足利義満御判御教書	楮紙	強杉原	1910	0.36	0.26	95	11.7
3091			沙弥真兼〈土岐頼世〉書状	楮紙	杉原	1540	0.15	0.21	31	15.8
1217		1583	今村家次田地作職売券	楮紙	雑紙（強紙）	1116				16.9
3252		1351	後村上天皇綸旨封紙							14.0
354	1	1350	藤原氏女陳状							15.2
705			播磨小宅庄三職文書							20.4
1997	1	1586	大仙院納所宗?請文	楮紙		1133				19.8
1997	2	1586	自徳軒宗程請文	楮紙		860				23.1
1997	3	1586	友松軒紹仲請文	楮紙		1144				20.1
1997	4	1586	拾雲軒宗賀請文	楮紙		1133				23.2
1997	5	1586	南明庵紹?請文	楮紙		1133				23.1
1997	6	1586	松雲軒宗?請文	楮紙		1133				20.1
1997	7	1586	渓雲軒紹琮請文	楮紙	杉原	1133				17.8
915			茨木長隆奉書							17.5

簀の目統計		
	データ数	309
	平均	16.4
	最多	25.0
	最少	8.1

1) 富田正弘 : “古文書料紙原本にみる材質の地域的特質・時代的変遷に関する基礎的研究”, 平成 6 年度科学研究費補助金（総合研究 A）研究成果報告書（課題番号 04301039, 研究代表者富田正弘）, p.9 (1995)
2) 加藤雅人, 正司哲朗, 村山健二, 岡田至弘, 江南和幸, 池田和彦, 坂田雅之 : “簀の目の測定法の開発および応用例”, 文化財保存修復学会, 25 回大会研究発表要旨集, pp70-71 (2003, 京都)
3) 稲葉政満, 加藤雅人:“シーボルト和紙コレクションの紙質調査”, 平成 16 年度科学研究費補助金（公募研究 A06）研究成果報告書（課題番号 16018207, 研究代表者稲葉政満）, pp11-16 (2006)
4) 加藤雅人 : 平成 13 年度古典籍デジタルアーカイブ研究センター研究成果報告書, 龍谷大学, pp125-128 (2002)
5) 久米康生 : 私信 (2006)
6) 稲葉政満, 加藤雅人:“シーボルト和紙コレクションの紙質調査”, 平成 16 年度科学研究費補助金（公募研究 A06）研究成果報告書（課題番号 16018207, 研究代表者稲葉政満）, p.14 (2006)
7) 稲葉政満, 小宮英俊 : ”パークスコレクションの紙質調査”, 東京芸術大学美術学部紀要, 第 32 号, p. 5（1997）（同一のものが以下の文献にも所収）稲葉政満, 小宮英俊:“シーボルト和紙コレクションの紙質調査”, 平成 16 年度科学研究費補助金（公募研究 A06）研究成果報告書（課題番号 16018207, 研究代表者稲葉政満）, pp.93-94 (2006)